

| | |
|--|---------|
| 第61回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 予 防 接 種 基 本 方 針 部 会 | 資料 4 |
| 2024(令和6)年7月18日 | |

新型コロナウイルスワクチンについて（報告）

ひと、くらし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

【1】新型コロナワクチンについて（報告）

- （1）オミクロンXBB.1.5対応 1価ワクチンの有効性
- （2）令和6年度の定期接種で使用するワクチンについて

【1】新型コロナワクチンについて（報告）

- （1）オミクロンXBB.1.5対応 1価ワクチンの有効性
- （2）令和6年度の定期接種で使用するワクチンについて

オミクロンXBB.1.5対応 1価ワクチンの有効性について

- 我が国の令和5年度秋開始接種で使用した、オミクロンXBB.1.5対応 1価ワクチンについて、国内外の複数の報告において入院予防効果・重症化予防効果等が示されている。

【国内の報告】

- ・ 60歳以上において、入院予防効果 44.7% (オミクロンXBB.1.5対応 1価ワクチン未接種者と比較)

【海外の報告】 (オミクロンXBB.1.5対応 1価ワクチン未接種者と比較)

- ・ 60歳以上において、入院予防効果 70.7%、ICU入室予防効果 73.3%
- ・ 18歳以上において、入院予防効果 62%、救急受診予防効果 58%
- ・ 65歳以上において、入院予防効果は接種7-59日後で54%、接種120-119日後で50%

- 上記の報告について、厚生労働省ホームページに掲載し、国民への情報提供を行うとともに、秋からの定期接種に向けた情報提供も行う。

国内における新型コロナウイルスの有効性

(オミクロンXBB対応1価ワクチンの入院予防効果)

国内における、60歳以上の者におけるXBB対応型1価ワクチン接種の入院予防効果は、XBB対応型1価ワクチンを接種していない者と比較して44.7%だった。なお、観察期間にはJN.1系統が流行した2024年1月以降を含む。

VERSUS Study¹ 第11報 (2024)

研究内容： 2023年10月1日から2024年3月31日の間に9都府県12か所の病院において、急性呼吸器感染症を疑う症状を呈して^{※1}入院した16歳以上の患者を対象に、検査陰性デザイン (test-negative design) を用いた症例対照研究を実施。60歳以上の集団1,110名において、XBB対応型1価ワクチン接種^{※2}の入院予防の有効性を評価した。また、より重症なアウトカムに対する予防効果を評価するため、対象患者を「呼吸不全のある患者^{※3}」「中等症以上の重症度の患者^{※4}」「肺炎がある患者^{※5}」に絞った解析も実施。

結果： XBB対応型1価ワクチンの入院予防の有効性は以下のとおり。なお、XBB対応型1価ワクチン接種者^{※2}255人のうち接種日がわかっている166人における接種からの日数は中央値56.5日(四分位範囲:31日-95日)、XBB対応型1価ワクチン未接種者418人のうち接種日がわかっている250名における接種からの日数は中央値301日(153-466日)であった。

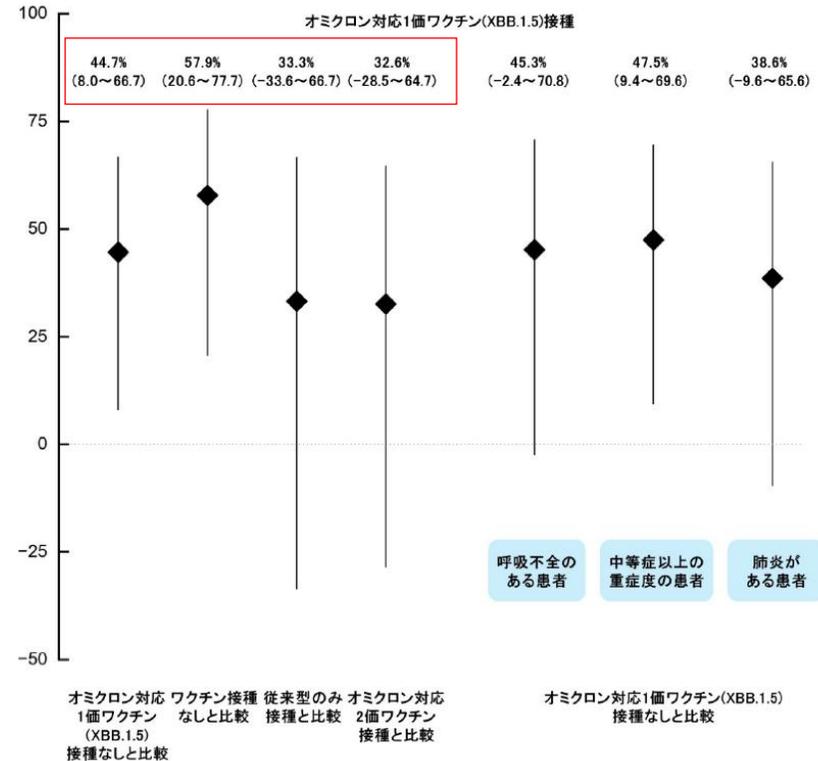
【入院予防効果】

- 60歳以上におけるXBB対応型1価ワクチン接種の入院予防効果：
 - ✓ XBB対応型1価ワクチン接種なしと比較：44.7% [95%CI: 8.0-66.7]
 - ✓ 新型コロナウイルス接種なしと比較：57.9% [20.6-77.7]
 - ✓ 従来型の新型コロナウイルスのみ接種と比較：33.3% [-33.6-66.7]
 - ✓ オミクロン対応2価ワクチン接種と比較：32.6% [-28.5-64.7]

【より重症なアウトカムに対する予防効果】

- XBB対応型1価ワクチン接種の有効性
 - ✓ 呼吸不全のある患者^{※3}における解析：45.3% [-2.4%-70.8%]
 - ✓ 中等症以上の重症度の患者^{※4}における解析：47.5% [9.4%-69.6%]
 - ✓ 肺炎がある患者^{※5}における解析：38.6% [-9.6%-65.6%]

図1. 60歳以上でのオミクロン対応1価ワクチンの入院予防の有効性



※1 37.5℃以上の発熱、咳、喀痰、胸痛、呼吸困難、頻呼吸、急性疾患による酸素投与のうち2つ以上又は画像検査で新たに出現した肺炎像を認める者

※2 接種後7日以上経過を評価対象とした。

※3 以下のいずれかを満たす場合を呼吸不全ありと定義：①呼吸回数 \geq 30回/分、②SpO₂<90%、③酸素投与が必要

※4 CURB-65で評価した重症度において、中等症(2点)以上と定義。CURB-65の計算方法は意識レベルの異常、尿素窒素値>20mg/dl、呼吸回数 \geq 30回/分、収縮期血圧<90mmHg、年齢65歳以上を各1点で合計

※5 入院時に新たに出現した肺炎像を認めた患者と定義

2024(令和6)年2月5日

オミクロンXBB対応 1価ワクチンの有効性 (入院及び集中治療室入室に対する予防効果)

60歳以上の新型コロナワクチン接種歴がある者において、2023年10-12月におけるXBB株対応型 1価ワクチンの入院予防効果は70.7%、ICU入室予防効果は73.3%であった。

Henri van Werkhoven C et al¹ (Eurosurveillance, 2024)

研究内容：オランダで2023年9月25日時点で人口統計に登録がある60歳以上の者のうち、過去に新型コロナワクチン接種歴^{※1}があり、XBB株対応型 1価ワクチンの接種適応がある者を対象。2023年10月9日-12月5日におけるファイザー社XBB株対応型 1価ワクチンの入院^{※2}予防効果、ICU入室予防効果それぞれをスクリーニング法^{※3}を用いて推計した。

結果：4,184,231名が対象となった。入院は2,050例で、このうちXBB株対応型 1価ワクチン接種者は295例(14.4%)であった。ICU入室は92例で、このうちXBB株対応型 1価ワクチン接種者は8例であった。60歳以上でXBB株対応型 1価ワクチンの接種適応がある者における接種率は右下のグラフ青線のとおり^{※4}であった。ファイザー社XBB株対応型 1価ワクチンの60歳以上の者における有効性は以下のとおり。

- 入院予防効果： 70.7% [95%CI : 66.6-74.3]
 - 60-74歳： 68.3% [58.3-75.9]
 - 75-84歳： 73.9% [68.5-78.4]
 - 85歳以上： 66.0% [56.4-73.5]
- ICU入室予防効果： 73.3% [42.2-87.6]

※1 オランダの新型コロナワクチン接種の全国登録データベース(CIMS)に登録されている、2021年1月以降に最低1回以上ワクチン接種を受けた者。

※2 オランダの新型コロナウイルス感染症に罹患した入院症例の約55%をカバーするデータセットから、新型コロナウイルス感染症以外の理由で入院した者を除外。

※3 スクリーニング法は、症例群におけるワクチン接種率と、その症例群が所属する比較対象として妥当な集団におけるワクチン接種率を用いることでワクチン有効性を推計する手法。PCV=症例群中のワクチン接種率、PPV=比較対象の集団におけるワクチン接種率として、 $crude\ VE(粗ワクチン有効性) = 1 - \{(PCV/1-PCV) \times (1-PPV/PPV)\}$ で得られる。本研究では、新型コロナウイルス感染症による入院者、対象集団全体それぞれにおけるXBB株対応型ワクチン接種率を、CIMSに登録されている接種日、性別、地域、5歳刻みの年齢集団で層別化して算出した。

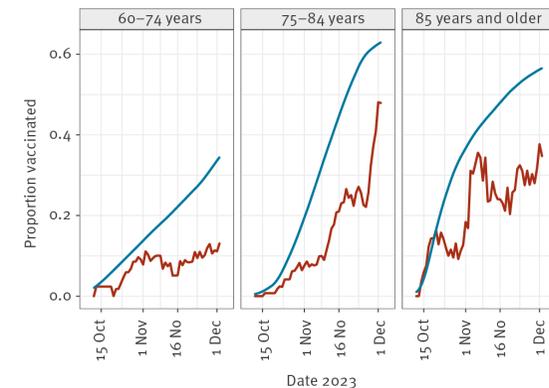
※4 実数は論文中に示されていない。

1 van Werkhoven C Henri, Valk Anne-Wil, Smagge Bente, de Melker Hester E, Knol Mirjam J, Hahné Susan JM, van den Hof Susan, de Gier Brechje. Early COVID-19 vaccine effectiveness of XBB.1.5 vaccine against hospitalisation and admission to intensive care, the Netherlands, 9 October to 5 December 2023. Euro Surveill. 2024;29(1)

XBB株対応型 1価ワクチン未接種者と比較した 当該ワクチン既接種者の入院及び ICU入室に対するワクチン有効性

| Outcome | Age group (years) | Number of cases with 2023 seasonal vaccination | Number of cases without 2023 seasonal vaccination | VE (95% CI) |
|--------------------------|-------------------|--|---|-------------------|
| COVID-19 hospitalisation | ≥60 | 295 | 1,755 | 70.7% (66.6-74.3) |
| | 60-74 | 59 | 681 | 68.3% (58.3-75.9) |
| | 75-84 | 150 | 756 | 73.9% (68.5-78.4) |
| | ≥85 | 86 | 318 | 66.0% (56.4-73.5) |
| COVID-19 ICU admission | ≥60 | 8 | 84 | 73.3% (42.2-87.6) |

60歳以上のXBB株対応型 1価ワクチン接種適応者における接種率推移(青)及び入院症例におけるワクチン接種率の7日移動平均(赤)



オミクロンXBB対応 1価ワクチンの有効性 (入院及び救急受診に対する減少効果)

18歳以上における、XBB株対応型 1 価ワクチン未接種者と比較したXBB株対応型 1 価ワクチン接種の新型コロナウイルス感染症による入院と救急受診に対する予防効果はそれぞれ62%、58%であった。

Tartof S et al¹ (JAMA Internal Medicine, 2024)

研究内容：米国カイザー・パーマネンテ南カリフォルニアにおいて、2023年10月10日–12月10日に入院、救急受診^{※1}又は外来受診をし、急性呼吸器感染症と診断され、新型コロナウイルスのPCR検査を受けた18歳以上の者^{※2}が対象。PCR検査陽性例を症例群、陰性例を対照群とし、ファイザー社XBB株対応型 1 価ワクチン接種者とXBB株対応型 1 価ワクチン未接種者^{※3}の割合を比較し、ファイザー社XBB株対応型 1 価ワクチンの入院予防効果、救急受診及び外来受診減少効果を評価したテストネガティブデザインの症例対照研究。

結果：18,199名が対象となり、入院2,977名、救急受診15 222名が解析された。全対象者のうち15.7% (2,854/18,199) がPCR検査陽性となり、6.3% (1,146/18,199) がファイザー社XBB株対応型 1 価ワクチンを接種していた。接種後日数の中央値は34日 (範囲23–49) だった。18歳以上における同ワクチン接種者のXBB株対応型 1 価ワクチン未接種者に対する新型コロナ感染症による入院、救急受診に対する予防効果^{※4}は以下のとおり。

- 入院予防効果： 62% [95% CI: 32-79]
- 救急受診予防効果： 58% [48–67]

※1 救急外来受診及び、急病外来 (Urgent Care) 受診を含む。

※2 1年以上健康保険プランの会員である者を対象とし、次のいずれかに該当する者は除外：90日以内の新型コロナウイルス陽性、ファイザー社以外のXBB対応型 1 価ワクチン接種、XBB対応型 1 価ワクチンを前回の新型コロナワクチン接種から2か月以内に接種、PCR検査の14日以内にファイザー社XBB対応型 1 価ワクチンを接種、XBB対応型以外のワクチンによるCDCの推奨間隔外での追加接種。

※3 他社製品を含むXBB対応型 1 価ワクチンは未接種で、他の新型コロナワクチンの接種歴は問わない。

※4 受診した週、年齢、性別、自己報告による人種・民族、BMI、Charlson comorbidity index、過去の新型コロナウイルス感染及び医療機関受診歴で調整した。

1 Sara Y. Tartof, corresponding author, Jeff M. Slezak, Timothy B. Frankland, MA, Laura Puzniak, Vennis Hong, Bradley K. Ackerson, Julie A. Stern, Joann Zamparo, Sarah Simmons, Luis Jodar, and John M. McLaughlin. Estimated Effectiveness of the BNT162b2 XBB Vaccine Against COVID-19. JAMA Intern Med. 2024 Jun 24 : e241640.

18歳以上のファイザー社XBB株対応型 1 価ワクチンの予防効果

Acute respiratory infection encounter

Hospitalization

Did not receive an XBB vaccine (including unvaccinated)

Received BA.4/5 bivalent vaccine but no XBB vaccine

Received ≥3 doses of wild-type vaccine only (no variant-adapted vaccines of any kind)

Received ≥2 doses of wild-type vaccine only (no variant-adapted vaccines of any kind)

Unvaccinated

Emergency department/urgent care visit

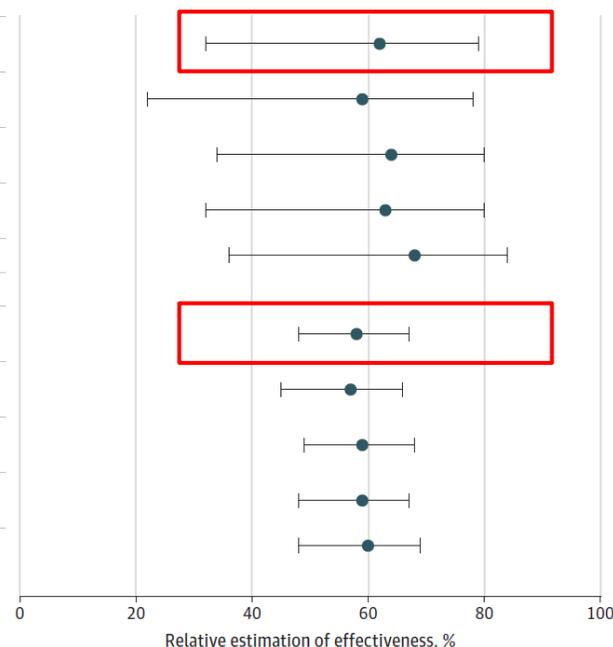
Did not receive an XBB vaccine (including unvaccinated)

Received BA.4/5 bivalent vaccine but no XBB vaccine

Received ≥3 doses of wild-type vaccine only (no variant-adapted vaccines of any kind)

Received ≥2 doses of wild-type vaccine only (no variant-adapted vaccines of any kind)

Unvaccinated



オミクロンXBB対応 1価ワクチンの有効性 (入院及び救急受診に対する減少効果)

65歳以上における、XBB株対応 1価ワクチン未接種者と比較した、XBB株対応 1価ワクチンの入院予防効果は、接種7-59日後は54%、接種60-119日後は50%であった。救急外来受診予防効果は65歳以上において、接種7-59日後は49%、接種60-119日後は37%であった。

Jennifer DeCuir et al¹ (MMWR, 2024)

研究内容: 米国の2つ他施設共同研究の枠組み^{※1} (VISION network及びIVY network) を用いた研究、2023年9月-2024年1月に新型コロナウイルス感染症様の症状を呈して入院した18歳以上で免疫不全ではない者が対象。新型コロナウイルス検査陽性例を症例群、検査陰性例を対照群とし、XBB株対応 1価ワクチンの接種者と未接種者を比較し、新型コロナウイルスワクチン接種の救急外来受診と入院に対する予防効果を評価したテストネガティブデザインの症例対照研究。

結果: VISION networkを用いて入院予防効果を評価し、VISION network及びIVY networkを用いて救急外来受診の予防効果を評価。対象は18歳以上。

- VISION network: 128,825件の救急外来受診 (うち、新型コロナ陽性17,229件) と、37,503件の入院 (うち、新型コロナ陽性395回) を解析。
- IVY network: 4,117件の入院 (うち、新型コロナ陽性1194件) を解析。

以下に65歳以上の年齢における有効性を記載。

- 入院予防効果 (65歳以上)
 - VISION network
 - 接種7-59日後: 54% [47-60]
 - 接種60-119日後: 50% [39-54]
 - IVY network
 - 全期間 (中央値 接種48日): 48% [31-61]
- 救急外来受診予防効果 (65歳以上)
 - VISION network
 - 接種7-59日後: 49% [95%CI: 44-54]
 - 接種60-119日後: 37% [29-44]

オミクロンXBB株対応 1価ワクチン接種の入院予防効果

| VE network/Age group, yrs/COVID-19 vaccination dosage pattern | No. (column %) | | Median interval since last dose for vaccinated persons, days (IQR) | VE %* (95% CI) |
|---|------------------------|---------------------------|--|----------------------------|
| | COVID-19 case-patients | COVID-19 control patients | | |
| VISION (4,589 case-patients and 32,914 control patients) | | | | |
| ≥18 | | | | |
| No updated dose [†] (Ref) | 4,194 (91) | 28,715 (87) | 627 (383 to 765) | Ref |
| Received updated dose | 395 (9) | 4,199 (13) | 42 (24 to 62) | 52 (47 to 57) |
| 7-59 days earlier | 270 (6) | 3,056 (9) | 32 (19 to 45) | 53 (46 to 59) |
| 60-119 days earlier | 125 (3) | 1,143 (3) | 73 (66 to 81) | 50 (40 to 59) |
| 18-64 | | | | |
| No updated dose [†] (Ref) | 938 (96) | 11,342 (95) | 685 (447 to 829) | Ref |
| Received updated dose | 38 (4) | 657 (5) | 38 (22 to 58) | 43 (20 to 59) |
| 7-59 days earlier | 28 (3) | 503 (4) | 30 (19 to 44) | 42 (14 to 61) |
| 60-119 days earlier | 10 (1) | 154 (1) | 74 (67 to 81) | 45 (-6 to 71) ⁵ |
| ≥65 | | | | |
| No updated dose [†] (Ref) | 3,256 (90) | 17,373 (83) | 549 (370 to 745) | Ref |
| Received updated dose | 357 (10) | 3,542 (17) | 43 (25 to 62) | 53 (47 to 58) |
| 7-59 days earlier | 242 (7) | 2,553 (12) | 32 (19 to 46) | 54 (47 to 60) |
| 60-119 days earlier | 115 (3) | 989 (5) | 73 (66 to 81) | 50 (39 to 59) |
| IVY (1,194 case-patients and 2,923 control patients) | | | | |
| ≥18 | | | | |
| No updated dose [†] (Ref) | 1,100 (92) | 2,570 (88) | 645 (387 to 781) | Ref |
| Received updated dose | 94 (8) | 353 (12) | 47 (25 to 71) | 43 (27 to 56) |
| 7-59 days earlier | — | — | — | — |
| 60-119 days earlier | — | — | — | — |
| ≥65 | | | | |
| No updated dose [†] (Ref) | 747 (91) | 1,284 (84) | 573 (375 to 752) | Ref |
| Received updated dose | 76 (9) | 245 (16) | 48 (26 to 72) | 48 (31 to 61) |
| 7-59 days earlier | — | — | — | — |
| 60-119 days earlier | — | — | — | — |

※1 VISION network: 369カ所の救急外来と229の病院が参加する、他施設共同研究の枠組み。IVY network: 26病院が参加する多施設共同研究の枠組み。
Jennifer DeCuir, Amanda B. Payne, Wesley H. Self. Effectiveness of Updated 2023-2024 (Monovalent XBB.1.5) COVID-19 Vaccines Against COVID-19-Associated Emergency Department and Urgent Care Encounters and Hospitalization Among Immunocompetent Adults Aged ≥18 Years — VISION and IVY Networks, September 2023-January 2024. MMWR Morb Mortal Wkly Rep 2024;73:180-188.

健康・医療

新型コロナワクチンの有効性・安全性について

- 有効性の評価について
- 安全性の評価について
- 副反応を疑う症状についてのご相談（都道府県別）

新型コロナワクチンの有効性・安全性に関する情報などをお届けします。

有効性の評価について

新型コロナワクチンについては、有効性や安全性が確認された上で薬事承認されており、さらに、国内外で実施された研究などにより、新型コロナウイルス感染症にかかった場合の入院や死亡等の重症化等を予防する重症化予防効果が認められたと報告されています。

[ページの先頭へ戻る](#)

安全性の評価について

接種開始後の安全性の評価

▷副反応疑い報告と審議会での評価

接種後に生じうる副反応を疑う事例について、医療機関に報告を求め、収集しています。

ワクチンと関係があるか、偶発的なもの・他の原因によるものかが分からない事例も数多く報告されます。

収集した報告について、厚生労働省の審議会に報告し、専門家による評価を行います。こうした結果を公表するなどして、安全性に関する情報提供などを行ってまいります。

追記イメージ

ワクチンの有効性に関する具体的な知見は以下のとおりです。

〈オミクロンXBB.1.5対応 1価ワクチンに関する知見〉

【国内の報告】

- 60歳以上において、XBB.1.5対応 1価ワクチン未接種者と比較した入院予防効果が44.7%。

【海外の報告】

- 60歳以上において、XBB.1.5対応 1価ワクチン未接種者と比較した入院予防効果が70.7%、ICU入室予防効果が73.3%
- 18歳以上において、XBB.1.5対応 1価ワクチン未接種者と比較した入院予防効果が62%、救急受診予防効果58%
- 65歳以上において、XBB.1.5対応 1価ワクチン未接種者と比較した入院予防効果は接種7-59日後で54%、接種60-119日後で50%

【1】新型コロナワクチンについて（報告）

- （1）オミクロンXBB.1.5対応 1価ワクチンの有効性
- （2）令和6年度の定期接種で使用するワクチンについて

新型コロナワクチンの定期接種への導入に係る具体的な規定について

事務局案

【新型コロナウイルス感染症の位置づけ及びワクチンの接種について】

- 第53回分科会の議論を踏まえ、新型コロナウイルス感染症を予防接種法のB類疾病に位置づけることとし、この際、定期接種の対象者等に関する具体的な規定については、以下のとおりとはどうか。

| | | |
|-----------------|-------|---|
| 定期接種の対象者 | (政令) | <ul style="list-style-type: none"> ● 65歳以上の者 ● 60歳以上65歳未満の者であって、心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能の障害又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害を有するもの(※) |
| | (省令) | <ul style="list-style-type: none"> ※ 予防接種法施行規則においては、「心臓、腎臓又は呼吸器の機能に自己の身の日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する者及びヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する者」と規定。 |
| 接種間隔・方法 | (省令*) | <ul style="list-style-type: none"> ● 毎年度一回筋肉内に注射する。 |
| 長期療養特例 | (省令) | <ul style="list-style-type: none"> ● 現行のインフルエンザと同様、特例の適用除外とする。 |
| 定期接種対象者から除かれる者等 | (省令) | <ul style="list-style-type: none"> ● 現行規定のとおりとする。 |
| 副反応疑い報告基準 | (省令) | <ul style="list-style-type: none"> ● 現在実施している特例臨時接種と同様の副反応疑い報告基準を定める。 |
| 定期接種化の開始時期 | (政令) | <ul style="list-style-type: none"> ● 令和6年4月に、新型コロナウイルス感染症をB類疾病に位置づける。 ※定期接種の開始は、令和6年の秋とする。 |
| 他のワクチンとの接種間隔 | (通知) | <ul style="list-style-type: none"> ● 注射生ワクチン以外のワクチンと同様の取扱いとする。 |

*を付した省令の規定については、今後の本分科会における議論等を踏まえて更に検討し、後日諮問を予定。

【用いるワクチンについて】

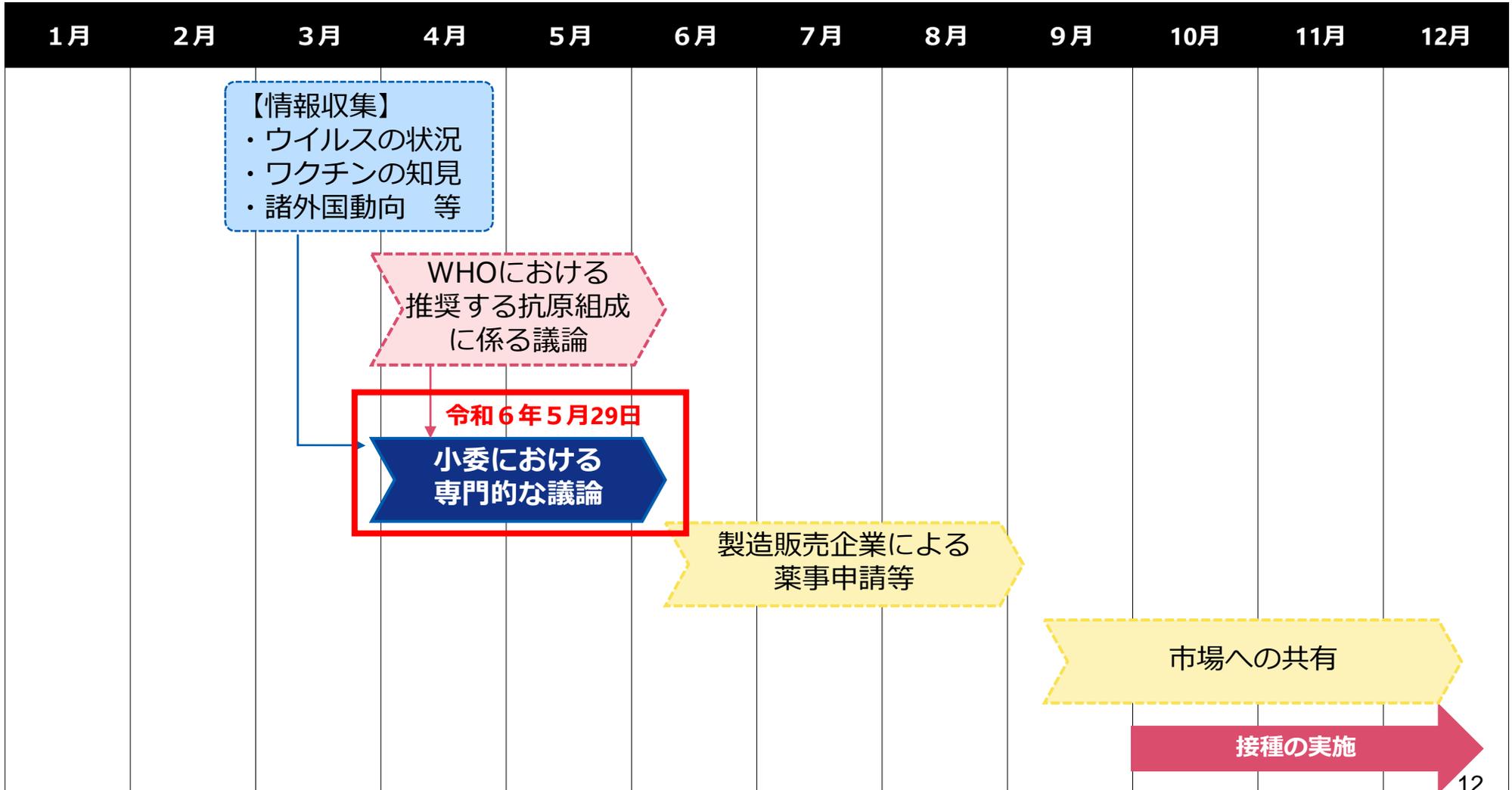
- 秋冬の接種に向け、用いるワクチンに含むウイルスの抗原組成の選択については、インフルエンザワクチンに関する研究開発及び生産・流通部会の議論も踏まえ、最新のWHOの推奨する抗原組成を用いることを基本とはどうか。
- また、選択肢の確保の観点から、様々なモダリティのワクチンについても、開発状況に応じて用いてはどうか。
- 今後の具体的な検討については、インフルエンザワクチンにおけるワクチン株の検討と同様、研究開発及び生産・流通部会において行うこととはどうか。

【その他の検討事項及び今後の進め方について】

- ワクチンの初回・追加接種の取扱いについては、今後、薬事における検討状況等を踏まえ、今後改めて本分科会に報告等を行うこととしたい。
- 上記の検討状況等も踏まえ、必要な規定等について、改めて本分科会にお諮りしたい。

今後の進め方

- 新型コロナウイルスの変異や流行する系統の状況、ワクチンに関する科学的知見、諸外国動向等について情報収集を進めつつ、本年春頃を目途に議論を行うべく、情報収集等を行ってはどうか。



2024/25シーズンの定期接種で使用する新型コロナウイルスの抗原組成について

| | |
|---|----------------|
| 第2回厚生科学審議会予防接種ワクチン分科会 研究開発及び生産・流通部会 季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナウイルスの製造株について検討する小委員会 | 資料 1 (改) |
| 2024（令和6）年5月29日 | |

まとめ

【これまでの経緯】

- 第55回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会（2024年2月5日開催）において、2024年度以降の定期接種で用いる新型コロナウイルスの抗原組成について、以下の方針とされた。
 - ・最新のWHOの推奨する抗原組成を用いることを基本とすること
 - ・様々なモダリティのワクチンについても、開発状況に応じて用いること
 - ・具体的な議論は研究開発及び生産・流通部会で行うこと

【WHOの推奨】

- 2024年4月に開催されたTAG-CO-VAC（Technical Advisory Group on COVID-19 Vaccine Composition）において、ウイルスの変化がJN.1から継続することが予想されるため、新型コロナウイルスの抗原組成について、JN.1系統及びその下位系統へのより高い中和抗体の誘導を目指すことが推奨され、一つのアプローチとして1価のJN.1系統の使用が推奨

【製薬企業の報告等】

- 製薬企業から、各社のメッセンジャーRNAワクチン又は組換えタンパクワクチンについて、新たな抗原組成のワクチンの開発状況等が報告された。

〈製薬企業の報告の概要（非臨床試験の結果）〉

- JN.1の成分を含む1価ワクチン接種は、XBB対応型1価ワクチン接種と比較して、JN.1に対して誘導される中和抗体価が
 - ・初回接種又は追加接種が完了（※）したマウスにさらに追加して接種した場合は、約2～10倍高かった。
 - ・初回接種として接種した場合は、約3～47倍高かった。 ※初回接種又は追加接種に用いられたワクチン（従来型ワクチン又はオミクロン株成分を含むワクチン）は、製薬企業によって異なる。
- JN.1の成分を含む1価ワクチン接種は、JN.1系統の他の下位系統（KP.2等）に対して、JN.1と同等程度の中和抗体価の上昇を誘導

- 国立感染症研究所から、我が国の各系統の検出状況（JN.1系統と並んで、BA.2.86.系統とFL.15.1.1系統の組換えにより生じたXDQ系統（*）が優位）や、オミクロンXBB.1.5対応1価ワクチンの、JN.1に対する免疫原性等の知見等が報告された。
* XDQ系統はJN.1系統の祖先であるBA.2.86系統と比較して、ワクチンが中和抗体反応の主なターゲットとするスパイクタンパク上のRBD（受容体結合領域）等の構造がBA.2.86系統と類似していることが知られている。

決定事項



- 2024/25シーズンの定期接種において使用するワクチンの抗原組成について、WHOの推奨と同様に「JN.1系統及びその下位系統へのより高い中和抗体を誘導する抗原を含むこととし、その一例としては1価のJN.1系統が考えられる。」と決定した。